

京都府立大学京都地域未来創造センター 主催

2023年度 まちづくり人材育成プログラム「場づくりLabo in 与謝野町ー農と食と地域ー」開催報告

■ なぜ、いま、「場づくり」なのか？

まちづくり人材育成プログラム「場づくり Labo」とは、自治体職員、地域づくりに関わる社会人や実践者を対象に、住民主体の地域づくりの現場を体感してもらい、ディスカッションを通じて、「地域づくり」を問い直す合宿型のプログラムです。

本プログラムでは、人づくりと地域づくりとの関係性に着目し、化学反応が起きる「場」のプロセスをどのようにデザインしたらよいか、地域のキーパーソンから話を聞き、参加者同士で話し合う学びの「実験室(Labo)」を展開しています。



■ なぜ、与謝野で、農と食なのか？

2021年度～2022年度は京都府南部の南山城村で地域の方々の協力の元、開催しました。今回のフィールド先は、京都府北部にある与謝野町です。与謝野町を含む丹後地方は、古くから織物の里として、絹織物「丹後ちりめん」の生産地として隆盛を極めるとともに、物流の拠点としても栄えてきました。また、四季折々の植生が豊かな大江山連峰や、天橋立の内海である阿蘇海、サケが遡上する清流 野田川といった自然に恵まれた地域で、今回のフィールドワーク先である、大江山から加悦谷平野一帯は田園地帯が広がる米どころです。近年では、ビールの原材料となるホップ栽培もおこなわれ、農作物の生産も盛んです。

今回は、農と食の価値を活かした地域づくりをテーマに、与謝野町らしい風土、地質、地形を生かした米や野菜づくり、食を通じた内外とのつながりと地域づくりの関係性について、地元の農家、料理人、ローカルベンチャーのキーパーソンから話を聞き、参加者のみなさんとワークショップ形式で話し合いをします。

■ ねらい:

- ① 地域の価値を体感する
- ② わがまちとのまちづくり・地域づくりのプロセスを比較する
- ③ 自分なりのガバナンスのビジョンを描く

■ 問い:

- ① 訪問先が人と人(あるいは組織)とをつなぐ場として、どのような役割を果たしているのか
- ② 誰がどのように地域の価値をつくってきたのか

■ 日程

事前学習(オンライン):2023 年9月30日(土) 午前10時～午前12時

合宿プログラム :2023 年10月7日(土) 午前11時30分～10月8日(日) 15時(1泊2日)

■ 会場 1日目: かや山の家 (与謝野町温江区)

2日目: PUBLIC HOUSE TANGOYA(与謝野町下山田区、与謝野駅前)

■ 今回のテーマ：「農と食と地域」

- 1 日目：「食」と「農」に着目し、土地や風土に根ざした地域固有の「らしさ」に気づく  
2 日目：「らしさ」を地域づくりに活かすには？ そのためには何が必要か？

■ 参加者 14名

- 1 日目：自治体職員9名・地域づくり支援者1名・大学教員1名・地域金融機関1名、大学院生2名  
2 日目：自治体職員5名・地域づくり支援者1名・デザイナー1名・大学教員1名・大学院生1名

■ 与謝野町の地域づくりのキーパーソン紹介

● 江種 里栄子さん (e.g. u (イージーユー) 代表)

※9/30(土) 事前学習(オンライン)

地域おこし協力隊の仕事で京都市内から与謝野町に移住。任期終了後は、個人事業主として活動を開始。丹後地域をはじめとした各地のイベントで、モバイルカフェを出店している。現在、温江区にある自宅をリノベーション中。パーティーやお茶会など、人が集まることのできる場を併設する予定。



● 青木 博さん(かや山の家支配人兼料理人 / (株)かや山の家運営委員会代表取締役) ※10/7

与謝野町(旧 加悦町)温江区出身。高校卒業と同時に地元を出て、海外でのバックパッカー、飲食店や接客などのサービス業に従事。2014年、子育て環境を考え、地元の与謝野町にUターンし、丹後地域のレストランで3年ほど料理人として勤務。かや山の家のリニューアルにあわせて、支配人 兼 料理長として勤務。

かや山の家は、公共の宿泊施設を改装して、2021年にリニューアルオープン。地元の住民有志が、(株)かや山の家運営委員会を立ち上げ、指定管理者として運営している。



● 梅田 優希さん(かや山の家) ※10/7(土)

1997年京都府京丹後市生まれ。幼少期から京都府丹後地域の豊かな自然と温かい地域の方々に囲まれて育つ。新卒で地元へUターンし、まちづくり会社へ入社。2023年6月から、かや山の家で働いている。

● 木村 正典さん・木村 有紀子さん(まさ農園) ※10/7(土)

大江山のふもとの温江区で、米、九条ネギ、きゅうりを中心に農作物を生産し、加工販売もおこなう2人組ユニット。正典さんは、建設関係の仕事を経て、45歳で農業に従事。現在、まさ農園の棚田では、京都府立大学院生命環境科学研究科土壌化学研究室と「まさ農園のコメはなぜ旨いのか？」をテーマに、大江山連峰の地質(蛇紋岩)と地形を生かした米のおいしさについて共同研究を行う。



● **濱田 祐太さん（株式会社 ローカルフラッグ 代表取締役）** ※10/8(日)

与謝野町出身。高校生の頃から、地元丹後の活性化を志し、大学入学後は、地方議員の事務所にてインターンシップを行う。大学2年生の時には、地元のNPO法人にて大学生のインターン受け入れ事業や、都市部人材と地域企業の兼業マッチング「ふるさと兼業」などを行う。大学在学中の2019年7月に、民間のまちづくり会社ローカルフラッグ設立（従業員数3名）、代表取締役に就任。2023年夏に、与謝野駅前にビール醸造所とタップルーム、コミュニティスペース「PUBLIC HOUSE TANGOYA」をオープン。

● **山添 藤真さん（京都府与謝野町長）**

※10/8(日)午前

1981年京都府生まれ。2004年フランス国立建築大学パリ・マラケ校に入学。06～08年フランス国立社会科学高等研究院パリ校に在学。10～14年京都府与謝野町議。14年与謝野町長に就任し、現在3期目。



■ **プログラム 外部メンター**

● **森本 健次さん（株式会社南山城 代表取締役）** ※10/7(土)夕食から10/8(日)まで

1967年 京都府南山城村生まれ、1985年南山城村役場入職。2010年 南山城村長特命の魅力ある村づくり事業担当。2015年 南山城村が出資した株式会社南山城取締役に就任し、2016年3月道の駅開業に専念するため退職。2017年4月開業の「道の駅お茶の京都みなみやましろ村」を拠点に地域商社として村茶のブランディングをはじめ、農産物の商品化、販路拡大に取り組む。

■ **プログラム モデレーター**

● **上杉 和央（文学部准教授・京都地域未来創造センター 統括マネージャー）**

専門は歴史地理学、文化景観学。日本の景観史に関する研究および文化的景観の調査と保存活用についての研究と実践をおこなっている。京都府北部では、京丹後市や舞鶴市、宮津市で、文化財保存活用と地域づくりや文化財景観に関わる調査研究、実践活動に取り組んでいる。

● **鈴木 暁子（京都地域未来創造センター コーディネーター）**

NPO やコミュニティシンクタンクの立ち上げを経て、2015年4月から京都府立大学の地域連携・調査研究部門でコーディネーターをつとめる。

● **川勝 健志（公共政策学部教授・京都地域未来創造センター センター長）** ※全体モデレーター

専門は財政学、環境経済学。持続可能な地域づくりに取り組む国内外のまちや地域を調査して回り、地域に暮らす人たちの生活の質を高める政策やそれを支える税財政システム、住民自治のあり方について研究。



● スケジュール

日時	10/7(土)	10/8(日)
内容	地域の基層を「体験」する	地域の資源を「活用」する
会場	かや山の家	PUBLIC HOUSE TANGOYA
フィールド	与謝野町 温江区	与謝野町 下山田区(与謝野駅周辺)
モデレーター	上杉和央(センター統括マネージャ・文学部)	川勝健志(センター長・公共政策学部)
<b>全体スケジュール</b>		
7:00		7:00-8:00 朝食 (かや山の家 ダイニング)
8:00		8:10 かや山の家ロビー集合 8:20-8:40 かや山の家→TANGOYAへ移動
9:00		<b>9:00 開始</b> <b>訪問先③:PUBLIC HOUSE TANGOYA</b> 与謝野駅周辺のまちあるき 案内: 濱田祐太さん((株)ローカルフラッグ) <b>10:00-12:00 セッション</b> 濱田祐太さん(株)ローカルフラッグ クロストーク: 森本健次さん((株)南山城) 山添藤真さん(与謝野町長) <b>昼食(TANGOYA)</b> (休憩)
10:00		
11:00		
11:30	受付 開始 かや山の家 集合	<b>13:30-15:00</b> <b>振り返り②(TANGOYA)</b> グループワーク 全体共有、講評
11:40	11:40-12:50 昼食セッション (山の家 ダイニング)	
12:00	13:00-14:00 <b>訪問先①</b> かや山の家(ホール) 青木博さん・梅田優希さん・Q&A 休憩(10分)	
14:00	14:10-15:40 <b>訪問先②</b> まさ農園(徒歩) 木村正典さん・有紀子さん かや山の家→棚田→まさ農園でQ&A 休憩(20分)	
15:00	16:00-17:30 <b>振り返り①</b> (山の家 ホール) グループワーク・全体共有・講評 休憩(30分)	
16:00	18:00-20:00 夕食(山の家 ダイニング) ジビエ料理のコース料理 丹後のクラフトビールや地酒など	

## ■ 参加者の感想

### Q1:プログラムの良かった点を教えてください。

- ・ キーパーソンの方、参加者の方と十分に交流する時間があったこと。名札の裏に料金を掲載していただくなど、詳細部分まで抜かりがなかったこと。
- ・ 住民による地域づくりの実例を知ることができた点が良かったです。
- ・ 他己紹介から打ち解けて、フィールドワークとワークショップすべて良かったと思います。目的である場づくりが具現化されていました。
- ・ 企画が充実しており事前の準備もしっかりとされていました。
- ・ 大学の先生が研究や教育以外でここまで充実したイベントを実施されるのは意外でした。
- ・ 様々な立場の地域のプレイヤーの方のお話がお伺いできたこと
- ・ 素晴らしい先駆者の実践の話を現場で少人数で聞き、学びをワークで咀嚼して、シェアあって、先生やメンターからフィードバックをその場でもらえるというプログラムのレベルの高さ。府立大の先生方が常日頃から地域に入っておられることで地域の方から信頼されている感覚も体感しました（町長が来てくださるなんて、本当にものすごいことです）。
- ・ 実際にまちづくりのキーパーソンに話を聞き、体感できたこと。
- ・ 様々なポジションの方と議論ができたこと
- ・ 地域の人と直接話するところが良かった

### Q2:プログラムの改善点を教えてください。

- ・ 市職員の参加者が多かったですが他職種の方がもう少し多ければ違った意見が出て面白そうだと思います。
- ・ 参加者がもう少し多いと良いと思います。
- ・ 地域連携が大切な中で、官学民金の各分野からも多様なメンバーが集まればもっと素晴らしいものになると思います。
- ・ 自治体からの自主的な参加者が少ないと感じました。
- ・ おもしろいと感じる公務員はたくさんいると思います。
- ・ 新たな参加者の開拓
- ・ ほとんど思いつかないくらい満足です。
- ・ 個人的には事前学習オンラインよりも、振り返り会オンラインとかのほうがいいかも思ったりしました。

### Q3: 今回のプログラムで最も良かったこと、得られた学びは何ですか。

- ・ 短い時間の中で様々な方々と対話ができたと。
- ・ 様々な分野の方と話が出来たことです。
- ・ 一番は仲間づくりで繋いで頂いたこと。それぞれの役割の中で視点や立ち位置は違えども、目標が同じであると共感できた。
- ・ 民間のキーパーソンや京都府立大学がまちづくり施策のパートナーであることに気づいたこと。
- ・ シビックプライドの涵養が地域振興の鍵の一つであることが理解できた。
- ・ 「まちづくり」はボランティアでは続かない。

- ・ 日常の実践の積み重ねが幸せそうで楽しそうであれば、地域であれ、組織であれ、自然と人が引き寄せられるということ。だからこそ、仕組みやコンセプト作りがとても大事（例えば、ローカルフラッグのビールが売れると、地域貢献に問題解決もなり、地域が潤う。結果として自然とまちづくりになる）。
- ・ 自分ができるところをまずはやってみる所、小さな一歩を踏み出すかどうかが大切だと学びました。
- ・ 今回聞いた話などを今までの経験や知識などと結びつけながら、自分の中で体系化できたこと。
- ・ 地域づくりについて、自分の視野が広がった。

Q4: その他、お気づきの点やご意見があれば、記入ください。

- ・ とても楽しかったです。
- ・ 今後共、地域金融機関との連携強化をお願いします。
- ・ 普段の仕事が福祉分野で住民と接する地域密着なのですが、自分の興味関心が地域づくりや環境や食や農にあるので、仕事以外で、自治体職員や大学関係者とともに学べるこのプログラムは自分にマッチしていました。
- ・ 京都府主催研修や、京都府立大学の研修や講義で、未来創造センターがかかわるものがあれば、（我々が参加可能なら）お知らせいただけるなら嬉しいです。
- ・ 実践者の方々に、現場でお話を聞いたことがとても良かったです。特に、濱田さんのような起業家のお若い方から、まさ農園の木村さんご夫婦のように長らくまちづくりに関わってきた方や町長等、年代や活躍されているフィールドが異なる方々のお話や対談を聞いたのが、とても良かったです。また、参加者同士の交流もとても楽しく、意欲のある方々と学べる機会をいただけて感謝しています。

Q5: 参加を通じて得られたことについて、あなたが同意するレベルを回答してください。

参加者アンケートからは、「参加者同士の話し合い」や「地域パートナーとのやりとり」が評価が高い。

